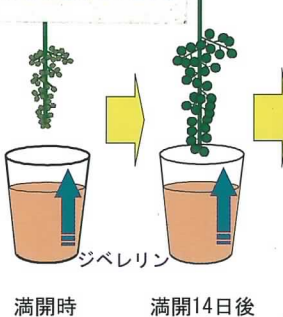


研究トピックス

ブドウ「シャインマスカット」の種なし栽培

シャインマスカット〔(独)果樹研究所育成〕は「巨峰」と同時期に収穫できる黄緑色の新品種です。マスカットの香りで食味も非常に良好です。花の満開時とその14日後のジベレリン(25ppm)処理で「種無し」になり、「巨峰」並の粒大になります。種なし果率を高めるにはストレプトマイシン200ppmの併用が効果的です。(園芸研究部)

注意 両剤の使用にあたっては、農業のラベルを確認して下さい。



種なし栽培のシャインマスカット

硝酸態窒素の導入による水田からのメタン放出低減

水田に硝酸態窒素濃度の高い水を入れると、硝酸態窒素を浄化できるだけでなく、温室効果ガスのメタンの放出量を大きく低減できることを明らかにしました。このとき、別の温室効果ガスの亜酸化窒素が放出されますが、メタン放出低減効果が大きいため、温室効果ガスの合計放出量(CO₂換算)は、大幅に低減されます。水域の硝酸態窒素の浄化に水田を活用することは、地球温暖化抑制の面でも有効です。本研究は、農林水産省の指定試験事業で実施しています。(東三河農業研究所)

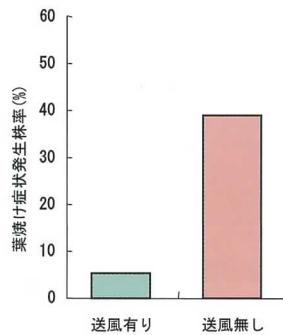
硝酸態窒素濃度の異なるかんがい水を導入した水田からの温室効果ガス〔メタン、亜酸化窒素〕の発生量(モデル試験)

硝酸態窒素濃度 mg/L	温室効果ガス放出量		
	メタン mg C/m ²	亜酸化窒素 mg N/m ²	合計(CO ₂ 換算) g CO ₂ /m ²
0.3	3,297	0	110
15	238	75	43

送風処理によるキクの葉焼け症状軽減技術

夏季のキク栽培に発生しやすい葉焼け症状は、生殖成長期に茎頂部付近へ風速1m/s程度で送風すると、大幅に軽減できることを明らかにしました。また、送風により収穫後の切り花の日持ち期間も長くなります。

(東三河農業研究所)



生殖成長期における送風の有無が葉焼け症状発生率に及ぼす影響(9月開花での試験結果)



葉焼け症状の発生状況

イチジク酵母腐敗病の防除対策

イチジクの果実を腐敗させる酵母腐敗病は、8月下旬から収穫終了まで発生します。病原は酵母菌で、オナジショウジョウバエ等、3種類のショウジョウバエにより媒介されることを明らかにしました。ショウジョウバエ類の防除のために、殺虫剤の殺虫効果を調査中です。(環境基盤研究部)



酵母腐敗病



オナジショウジョウバエ

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322(企画普及部)

FAX 0561-63-0815

http://www.pref.aichi.jp/nososi/